

別総務第 751号

令和2年2月10日

別府市議会議長 萩野忠好様

別府市長 長野恭紘



令和元年度市民と議会との対話集会における要望等に対する
回答について

令和2年1月14日付け議第1461号で提出のありました令和元年度
市民と議会との対話集会における要望等に対して、別紙のとおり回答いた
します。

令和元年度 市民と議会との対話集会における要望等

1 観光振興関連

- (1) 別府タワーの観光活用、インスタ映えするイルミネーションにしてほしい。
- (2) 観光客のための案内やサインが少ない。
- (3) 魅力ある地獄巡りにしてほしい。
- (4) 外国人旅行者のリピート率を上げてほしい。
- (5) 魅力ある別府市、付加価値を生み何度も訪れたい別府市を作してほしい。

2 産業振興関連

- (1) 商店街の活性化に取り組んでほしい。
- (2) 商店街がつまらない。シャッターが閉まっているところが多い。空き店舗を利用してリフォームなどして、のぞいて歩けるような商店街を作してほしい。
- (3) 企業誘致、地域で働き地域で生活、子育てしやすい別府市にしてほしい。
- (4) 空き店舗を若者に開放して、フリーマーケットや展示会場として使えるようにしてほしい。

3 市政運営関連

- (1) 人口減少及び少子化対策に取り組んでほしい。
- (2) SDG s 達成の取り組みを考え、市民にSDG s について知ってもらいたい。まずはホームページへの掲載から始め、別府からの発信をお願いしたい。

4 交通対策関連

- (1) 通学時間帯のバス・JRの便が少ない。特に帰宅時間帯の15時・16時台の便を増やしてほしい。

5 福祉関連

- (1) 超高齢化・少子化社会になってきているが、介護職の募集などに対してどのような対策を取っているのか。

6 教育・スポーツ関連

- (1) 県内進学できるよう選択校を増やすため、県内の特に専門学校等の学科を増やしてほしい。
- (2) 高校生が市内で気軽にバスケットやサッカーなど楽しめる場所がない。事前予約が必要であったりして使いにくい。また、個人としても利用しづらい。大分市の「線路敷ボードウォーク広場」のように、街中にストリートバスケットコートなど、誰でも自由に利用できるスポーツが出来る場所を作してほしい。
- (3) 図書館に学生が自習できるようなスペースを作してほしい。

令和元年度 市民と議会との対話集会における要望等に対する回答

| |
|---|
| 1 観光振興関連 |
| (1) 別府タワーの観光活用、インスタ映えするイルミネーションにしてほしい。 |
| 別府タワーは民間施設であり、長くアサヒビールの広告が全面に入っております。そのため別府市において直接イルミネーションを設置する予定はありませんが、別府タワーは歴史ある別府市の重要な観光資源でありシンボルともいえる存在であるため、今後も協力して別府市の観光振興につながる事業等を行っていきたいと考えています。 |
| (観光戦略部 観光課) |
| (2) 観光客のための案内やサインが少ない。 |
| 国内国外からの観光客の利便性や満足度向上のため、有用な案内やサインを検討し設置していきます。 |
| (観光戦略部 観光課) |
| (3) 魅力ある地獄巡りにしてほしい。 |
| 地獄巡りはすべて民間の施設であり、それぞれの施設が観光客の皆様に喜ばれるよう施設運営をされており、別府市を代表する観光施設として人気を博しているところでもあります。別府市といたしましてもともに観光振興に取り組むべく協力してイベントの実施などに努めてまいります。 |
| (観光戦略部 観光課) |
| (4) 外国人旅行者のリピーター率を上げてほしい。 |
| 別府市では外国人向けの観光客案内所を別府駅に2か所、鉄輪に1か所設けるなど旅行者の安心安全につながる取組や、手ぶら観光の推進を行うなど利便性の向上につながる取組を行っています。宿泊施設や観光施設におきましても外国語の話せるスタッフの雇用や翻訳機の導入などを行い、おもてなし向上の取組を行っており、今後もリピーター率の向上のため、官民一体となった様々な施策を実 |

施して参ります。

(観光戦略部 観光課)

(5) 魅力ある別府市、付加価値を生み何度も訪れたい別府市を作りたい。

2019年に旅行雑誌「じゃらん」の行なった旅行調査において、大分県への来訪者の満足度が92.2%で、全国ランキング1位となり、別府市単独の満足度の数値もほぼ同様と推測されます。これは観光施設や宿泊施設など観光関連産業に従事される皆様がおもてなしの向上に取り組んでいただいた成果であり、別府市といたしましても魅力発信やおもてなしの向上によるリピーターの増加に取り組んでまいります。

(観光戦略部 観光課)

2 産業振興関連

(1) 商店街の活性化に取り組んでほしい。

かつては商店街が日常の買物の場でしたが、市内の各所にコンビニや大型小売店舗が進出、大分市など周辺の他市まで買物に出かけることや、通信販売を利用することなど、買物の形態も変化してきており、次第に商店街の賑わいが薄れてきました。

時代の移り変わりを感じますが、商店街の活性化は地域の賑わいにつながりますので、商店街と行政が連携して取り組んでまいります。

(経済産業部 産業政策課)

(2) 商店街がつまらない。シャッターが閉まっているところが多い。空き店舗を利用してリフォームなどして、のぞいて歩けるような商店街を作りたい。

商店街を歩くと、廃業してシャッターが閉まったままの空き店舗が見られます。この空き店舗の所有者と商店街で新たに店舗経営をしたいという方とのマッチングが必要だと考えています。また、どのような店を開業したいのか、立地などニーズはどうか、収益性や持続性はどうか、などを検討したうえでようやく空き店舗が新たなお店として開業されます。

魅力的な店舗が増えることを期待していますが、そのためにはまず別府の商店街で開業したい人の掘り起こしが必要だと考えています。

(経済産業部 産業政策課)

(3) 企業誘致、地域で働き地域で生活、子育てしやすい別府市にしてほしい。

現在、別府市では企業誘致だけでなく、創業支援、就労支援などの各種施策を展開し、併せて教育・福祉施策にも力を入れており、別府で働くことができ、子育てもしやすい、そして別府に住んで良かったと思えるまちづくりを進めています。

(経済産業部 産業政策課)

(4) 空き店舗を若者に開放して、フリーマーケットや展示会場として使えるようにしてほしい。

空き店舗をフリーマーケットや展示会場として使えるようにするためには所有者と使いたいと考えている人とのマッチングが大事です。少しでも空き店舗が有効に活用されるよう物件の情報提供の方法などを考えているところです。

(経済産業部 産業政策課)

3. 市政運営関連

(1) 人口減少及び少子化対策に取り組んでほしい。

人口急減・超高齢化という大きな課題に対し、国では平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、各地方公共団体においては、平成27年度

内に「地方人口ビジョン」及び「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定が努力義務とされました。

別府市では、民間事業者などの関係者から成る「べっぷ『感動・共創・夢』会議」を設置し、全6回の討議などを経て、「別府市人口ビジョン」及び「別府市総合戦略」を策定し、平成27年度から地方創生に取り組んでまいりました。

また、令和2年3月に策定予定の第2期総合戦略において、引き続き人口減少及び少子高齢化といった課題の解決に努めてまいります。

(企画部 総合政策課)

(2) SDGs達成の取り組みを考え、市民にSDGsについて知ってもらいたい。まずはホームページへの掲載から始め、別府からの発信をお願いしたい。

SDGsとは平成27年9月に国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、この中で設定された持続可能な開発目標のことで、17の目標と169のターゲットから構成されています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

別府市におきましても、市が目指す将来像の実現のための長期的なまちづくりの指針であり、市民の皆様の活動の指針としても位置づけられる、「別府市総合計画」と、それと同等な重要計画である「第2期別府市総合戦略」を令和2年3月に策定予定ですが、その中でSDGsについて記載し、また、17の目標に応じたアイコンを記載し、市民の皆様に発信することを予定しています。

(企画部 総合政策課)

4 交通対策関連

(1) 通学時間帯のバス・JRの便が少ない。特に帰宅時間帯の15時・16時台の便を増やしてほしい。

交通政策は別府市にとって大きな課題であり、日常生活における移動手段の確

保のために、公共交通の充実は必要となってきました。

本件につきましては、利用者の実態に即した運行ダイヤとなるよう、各交通事業者に要望し、協議していきたいと考えています。

今後も、利用者ニーズを把握しながら、市民の利便性の向上のため、地域の実情に応じた公共交通の実現に努めてまいります。

(企画部 総合政策課)

5 福祉関連

(1) 超高齢化・少子化社会になってきているが、介護職の募集などに対してどのような対策を取っているのか。

今、全国的に超高齢化が進んでおり、別府市も例外ではありません。別府市の人口推計においても総人口が減少する中で、65歳以上の高齢者数は増加傾向にあります。また、いわゆる団塊の世代の方々が75歳以上になる2025年には、大分県全体で介護職員数が約1,600人不足するとの推計もあります。別府市には医療機関や介護施設なども多く、今後を見据えると介護人材の確保は喫緊の課題であるととらえています。

そういった状況の下、別府市では主に介護職場で実際に働いている方を対象として、介護の知識と技術の両面と、福祉の心の向上を目指した研修を、介護福祉士養成校に委託をして実施しています。その目的は、現在介護の仕事に従事されている方が介護職のやりがいや重要性を再認識し離職を抑制することに加え、介護に関心のある方に知識や技術を得ていただき新規従業者を増やすことにあります。

さらに、市内の公立中学校の2年生に対し、介護福祉に対する理解を深めることを目的として福祉・介護訪問授業を行っています。現在は核家族化が進み、高齢者と触れ合うことが少ない若い世代に、介護の魅力を伝え、将来選択する道の一つに介護分野を加えてもらいたいという希望を持ってこの事業に取り組んでい

ます。また、たとえ仕事に結びつかなくても、地域で高齢者を支える住民の一人として役割を担ってもらいたいと期待もしています。

実際の介護職の募集は、介護のサービスを行っている事業所が独自で行っていますが、以上のような取組を通して別府市では市全体的に介護人材の確保・育成に努めています。

(福祉共生部 高齢者福祉課)

6 教育・スポーツ関連

(1) 県内進学できるよう選択校を増やすため、県内の特に専門学校等の学科を増やしてほしい。

一人一人の適性や個性が活かせる進路を保証するために、県内の上級学校の学科が増えることは望ましいと考えます。いただいたご意見を、各種学校の教育振興に関わる機関等に伝えたいと思います。

(教育部 学校教育課)

(2) 高校生が市内で気軽にバスケットやサッカーなど楽しめる場所がない。事前予約が必要であったりして使いにくい。また、個人としても利用しづらい。大分市の「線路敷ボードウォーク広場」のように、街中にストリートバスケットコートなど、誰でも自由に利用できるスポーツが出来る場所を作してほしい。

市内には、体育館、野球場、サッカー場など多くの市営体育施設がありますが、皆さんに安全かつ公正に利用いただくため、事前予約制などのルールに沿った運用を行っています。また、公園テニスコートや温水プールのように事前予約が必要ない体育施設もございます。

誰でも自由に利用できるスポーツ施設ですが、適正な管理などについて課題があると考えられますが、市民の皆さんが気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくり、また、健康づくりに取り組んでいただけるようなきっかけづくりにつ

いて調査していきたいと考えています。

(教育部 スポーツ健康課)

(3) 図書館に学生が自習できるようなスペースを作ってほしい。

現在の図書館は、閲覧スペースが限られており、学生が自習できるスペースが十分に確保できていない状況です。施設の問題から自習できるスペースを新たに作ることは困難ですが、利用者が多い時には、「ふれあい広場サザンクロス」の会議室を開放して対応させていただいています。

(教育部 社会教育課)